

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 7 日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2010～2012

課題番号：22520433

研究課題名（和文） 東・南部バントゥ諸語における動詞派生形の記述・比較研究

研究課題名（英文） Descriptive Studies of Extended Verb Forms in Eastern & Southern Bantu Languages

研究代表者

小森 淳子（KOMORI JUNKO）

大阪大学・大学院言語文化研究科・准教授

研究者番号：10376824

研究成果の概要（和文）：

本研究の目的は、膠着的特徴をもつバントゥ諸語の動詞派生形について、現地調査や文献資料から得られた記述データを比較、検討することで、バントゥ諸語に見られる普遍的な特徴と、言語間に見られる相違について分析することである。特に豊富な派生形をもつ東・南部のバントゥ諸語について調査するために、ケニア・タンザニアへ研究協力者を派遣し、記述データを収集し、研究会やワークショップを開催して、各自の研究発表と議論をおこない、研究をとりまとめた。

研究成果の概要（英文）：

The aim of this project is to describe the extended verb forms of Eastern & Southern Bantu languages, which are the typical agglutinative languages and have rich derivational verb forms. We compared the data taken from the references and the results of the researches done in Kenya and Tanzania by the scholars in cooperation, and studied the universal properties and the differences among the languages. We held several meetings and workshops on Bantu languages including other topics.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010 年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2011 年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2012 年度	600,000	180,000	780,000
年度			
年度			
総計	3,100,000	930,000	4,030,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・言語学

キーワード：言語学、バントゥ諸語、アフリカ、形態論、動詞派生形

1. 研究開始当初の背景

バントゥ諸語はアフリカの言語の中でも、その分布域が最も広く、圧倒的に数が多い言語群である（赤道以南のほぼ全域に分布し、その数は 500 以上を数える）。また、バントゥ諸語はさらに大きな言語群であるニジェール・コンゴ語族の一部をなしており、ニジ

ェール・コンゴ語族全体の研究にとっても重要な位置を占めている。

日本におけるバントゥ諸語研究は、1960年代からの現地調査に基づく記述研究に始まり、第一世代から第二世代に受け継がれながら、現在に至るまでフィールド調査による記述研究が続けられている。その研究成果の

蓄積は膨大であるが、しかし、それらの研究成果は、個別言語の文法記述や語彙集の編纂などの段階が大半であり、また、声調研究など音韻の分野に偏ってきた点はいなめない。日本におけるバントゥ諸語研究のこれまでの歴史と蓄積を考えると、音韻分野のみならず、形態論、統語論、意味論などにおいて、通バントゥの視点にたった研究を進める時期にきていると言える。特に一般言語学にとっても重要な知見を与える、膠着的な特性をもつ動詞について、これまでに記述されたバントゥ諸語の特徴を分析し、比較検討することで、その普遍的な特性や個別言語に見られる相違点を明らかにし、一般化や理論化を図ることが求められている。動詞の派生形に着目することで、動詞の形態論についてのみならず、動詞がとる項も関係してくる統語論も視野に入れた包括的な研究をおこなうことができる。

海外のバントゥ諸語の研究においては、通バントゥの記述研究は進んでおり、その成果として、Nurse, Derek & G. Philippson (eds.) 2003 *The Bantu Languages*, London: Routledge. のようなバントゥ諸語全般にわたるような解説本が見られる。しかし、このような成果においてさえ、動詞の派生形といった個別の文法事項についての記述は、概説的な段階にとどまっており、統語的、意味的特徴まで合わせた包括的な記述とはなっていない。その点から見ても、バントゥ諸語研究にとって、形態論、統語論における総合的な比較研究は今後さらに精力的におこなわれるべき分野であり、本研究はその一翼を担うものになる。

2. 研究の目的

本研究の目的は、バントゥ諸語の中でも、特に動詞派生形の発達している東部アフリカと南部アフリカのバントゥ諸語を対象にして、動詞派生形の記述をおこない、それぞれの動詞派生形の形態と意味、統語的な特徴を明らかにすることである。さらに、得られたデータを比較・対照して、個々の派生形についての普遍的な特徴と、言語間に見られる相違を明らかにし、バントゥ諸語の動詞構造についての総合的、包括的研究をめざす。

バントゥ諸語の中でも、その故地に近いカメルーン付近に存在する諸語は、膠着的な形態から孤立的な形態へと「進化」しつつあり、派生接辞を失いつつある。それに対して、ケニアから南アフリカにかけての東・南部のバントゥ諸語は、故地から離れて移動してきたグループであるが、膠着的な性質を比較的よく保持しており、豊富な派生接辞を見ることができる。しかし、個別に見てみると、保持している派生接辞に違いがあり、また同じ派生接辞からなる動詞派生形であっても、その

形態や意味、統語関係に相違がみられる。東・南部バントゥ諸語の動詞派生形を調査し、比較研究することによって、バントゥ諸語の派生接辞の普遍的な特徴と個別の相違点を明らかにすることができる。また、そうすることによって、バントゥ諸語の動詞の本質的な性質の解明に迫ることができると考えられる。

3. 研究の方法

本研究では、現地調査によるデータの収集をおこない、文献から得られるデータと総合して分析し、動詞の派生形について包括的な議論と検討をおこなうという方法をとる。研究の遂行にあたっては、次の三点を計画の柱とした。

- ① 文献から得られるデータの収集と、東・南部アフリカでの現地調査。
- ② 日本の若手バントゥ諸語研究者が参加する研究会の開催。
- ③ 上記の調査から得られたデータと議論をもとに、総合的な分析結果をまとめる。

4. 研究成果

(1) 研究分担者や研究協力者によって、以下のような現地調査がおこなわれ、各自の研究成果が発表された。

- ① 研究分担者：米田信子
タンザニア（マテンゴ語調査）
- ② 研究協力者：八尾紗奈子
2011/1/11～2/11, 2011/8/23～9/23
タンザニア
（チャガ語ヴンジョ語調査）
- ③ 研究協力者：角谷征昭
2012/2/20～3/21
タンザニア（マリラ語、ニハ語調査）
- ④ 研究協力者：林愛美
2012/12/19～2013/1/13
ケニア（シェン語、マサイ語調査）

(2) 以下のような研究会やワークショップを開催し、各自の研究成果を発表し、議論をおこなった。

- ① アフリカ言語研究会
2010/10/16
於：大阪大学中之島センター会議室2
発表者：梶茂樹氏
“On the intransitive usage of transitive verbs in Tooro, a Bantu language of Western Uganda”、
安部麻矢氏“Relarive Clauses in Ma'a”

- ② 国際バントゥ諸語ワークショップ
2012/11/10～11
於：大阪大学中之島センター
共催：基盤研究(C)「ヘレロ語諸方言の比較研究に向けた東ヘレロ語の記述研究」

(研究代表者：米田信子)、基盤研究(B)「東アフリカにおけるスワヒリ語諸変種の記述研究」(研究代表者：竹村景子)

ゲストスピーカー：

Luts Marten (ロンドン大学 SOAS 校)

Nancy Kula (エセックス大学)

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 10 件)

① 小森淳子(2013)「スワヒリ語のいわゆる「壁塗り交替」構文について」、『スワヒリ&アフリカ研究』24号、大阪大学言語文化研究科スワヒリ語・アフリカ地域文化研究室、159-170、(査読無)。

② 小森淳子(2012)「アフリカ諸語における「形容詞」について —ヨルバ語とバントゥ諸語を例に」、『スワヒリ&アフリカ研究』23号、大阪大学世界言語研究センター スワヒリ語・アフリカ地域文化研究室、167-185、(査読有)。

③ 米田信子(2012)「スワヒリ語における 2種類の関係節」、『CLAVEL』2号、13-26、(査読無)。

④ 米田信子(2011)「ヘレロ語における動詞の声調 (バントゥ系、R31)」、『スワヒリ&アフリカ研究』22号、大阪大学世界言語研究センター スワヒリ語・アフリカ地域文化研究室、109-131、(査読無)。

⑤ 米田信子・若狭基道・塩田勝彦・小森淳子・亀井伸孝 (2011)「アフリカ講座 アフリカの言語」、『アフリカ研究』78号、43-60、(査読有)。

⑥ Yoneda, Nobuko (2011) “Word Order in Matengo (N13): Topicality and Informational Roles,” *LINGUA*, Vol.121, No.5, 754-771. (査読有)

⑦ 八尾紗奈子(2011)「チャガ語ウンジョ方言の名詞の基底声調について」、『スワヒリ&アフリカ研究』22号、大阪大学世界言語研究センター スワヒリ語・アフリカ地域文化研究室、95-108、(査読有)。

⑧ 小森淳子(2010)「バントゥ諸語の挨拶表現に関する一考察 — ハヤ語とケレウェ語の事例から」、『スワヒリ語圏における超民族語と諸民族の相克と均衡 — 言語文化的動態の記述を通して —』大阪大学世界言語研究センター スワヒリ語・アフリカ地域文化研究室、

24-40、(査読無)。

⑨ 米田信子(2010)「タンザニアにおける民族語の「スワヒリ語化」— マテンゴの例をとおして」、『スワヒリ語圏における超民族語と諸民族の相克と均衡 — 言語文化的動態の記述を通して —』大阪大学世界言語研究センター スワヒリ語・アフリカ地域文化研究室、11-23、(査読無)。

⑩ Yoneda, Nobuko (2010) “Swahilization of Ethnic Languages in Tanzania: The Case of Matengo,” *African Study Monographs*, Vol.31, No.3, 139-148.、(査読有)

[学会発表] (計 8 件)

① 米田信子「ヘレロ語名詞の声調(Bantu R31)：声調グループと実現形」、東京音韻論研究会 (招待講演)、2013/3/16、東京大学駒場キャンパス。

② Komori, Junko “Some Inversion Constructions in Swahili”, International Workshop on Bantu Languages, (2012/11/10-11, Osaka University Nakanoshima Center)

③ Yoneda, Nobuko “Noun-modifying Clauses in Bantu Languages”, International Workshop on Bantu Languages, (2012/11/10-11, Osaka University Nakanoshima Center)

④ 米田信子「バントゥ諸語の名詞修飾節 — スワヒリ語とヘレロ語の例」、複文構文の意味の研究ワークショップ、2011/12/18、大学共同利用施設ユニティ (神戸市西区)

⑤ 米田信子「スワヒリ語における「外」の関係節」、日本言語学会第 141 回大会、2010/11/27、東北大学 (仙台市)

⑥ Yoneda, Nobuko “Relative Clauses in Swahili — Contrastive Study with Japanese” 40th Colloquium on African Languages and Linguistics, 2010/8/24, Leiden University, Netherland.

⑦ Abe, Maya “Relative Clauses in Ma’a/Mbugu, 40th Colloquium on African Languages and Linguistics, 2010/8/23, Leiden University, Netherland.

⑧ 米田信子「ヘレロ語の声調体系 (バントゥ諸語、R31) — 名詞と動詞の声調型を中心に」、関西言語学会第 35 回大会、2010/6/27、

京都外国語大学（京都市）。

〔図書〕（計2件）

① 池谷和信（編）『ボツワナを知るための52章』、米田信子「第11章へレロ語を話す人びと—へレロ人とンバンデル人」、pp.78-83、明石書店、2012年。

② 塩田勝彦（編）『アフリカ諸語文法要覧』、米田信子・小森淳子・神谷俊郎「バントゥ諸語概説」（pp.151-155）、小森淳子「ケレウエ語(JE24）」（pp.169-184）、米田信子「マテンゴ語(N13）」（pp.241-255）、「へレロ語(R31）」（pp.257-271）、溪水社、2012年。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

小森 淳子 (KOMORI JUNKO)

大阪大学・大学院言語文化研究科・准教授
研究者番号：10376824

(2) 研究分担者

米田 信子 (YONEDA NOBUKO)

大阪大学・大学院言語文化研究科・教授
研究者番号：90352955

(3) 研究協力者

1) 安部 麻矢 (ABE MAYA)

大阪大学外国語学部・非常勤講師

2) 八尾 紗奈子 (YAO SANAKO)

大阪大学大学院言語文化研究科言語社会
専攻・博士後期課程

3) 角谷 征昭 (KADOYA MASA AKI)

早稲田大学・非常勤講師

4) 林 愛美 (HAYASHI MANAMI)

大阪大学大学院言語文化研究科言語社会
専攻・博士前期課程